

第7回東アジア島嶼海洋文化フォーラム

——海域人文ネットワークの展開と交流——

日 程：2019年11月27日（水）～12月1日（日）

会 場：釜慶大学校（韓国釜山広域市）

参加者：佐野賢治 小熊 誠 昆政明 関口博巨 泉水英計 兪鳴奇

韓国釜慶大学校における 第7回東アジア島嶼海洋文化フォーラム

小熊 誠

韓国釜慶大学校海洋文化研究所と日本常民文化研究所は、2009年に協定を締結し、それから10年以上も経過するが具体的な交流事業は少なかった。そこで、協定の更新のために2019年2月に釜慶大学校人文韓国プラス事業団の孫東周団長、その事業団に所属する海洋人文学研究所所長の曹世鉉先生をはじめとする数名の研究所所員が常民文化研究所に来訪し、ミニシンポジウムを開催した。この交流をもとに、2019年11月27日～12月1日まで韓国釜慶大学校で開催された第7回東アジア島嶼海洋文化フォーラムに参加し、さらに交流が進展したと思われる。

今回のフォーラムは、「東アジアの海洋文化の特殊性および外部世界との関連性」を主題とし、東アジアの海洋文化の歴史と未来を十分に認識し、能動的に把握し、東アジア海洋、島嶼、港湾、海路、陸海関係などの海洋歴史文化の重要問題などについて議論を展開することを目的とした。本研究所からは、以下の発表があった。（発表順）

○昆政明「本州島下北半島の昆布漁と漁船」

○兪鳴奇「航海・漁撈で使われた『試水砵』について——民具研究の視点からの再検討——」



写真1 フォーラムの会場



写真2 「台湾の「海女（ハイルー）」に関する民族誌的研究」班の研究発表（2019年11月28日）

- 関口博巨「18世紀、島の庄屋の歴史叙述——瀬戸内海に育まれた歴史認識——」
- 泉水英計「1950年代の沖縄と韓国における結核病対策の相関関係について」

そのほか、国際常民文化研究機構の共同研究で「台湾の海女」を研究している藤川美代子を代表とする研究グループが1つのセッションを組んで発表した。

- 藤川美代子「台湾の『海女』に関する民族誌的研究」
- 新垣夢乃「なにが台湾の『海女』を沖へと押し出したのか？」
- 齋藤典子「海女が採る海藻をめぐるの考察——日・台・韓の漁業権と資源保護——」
- 兪鳴奇「海女們对海藻的認知与利用」（中国語発表）
- 藤川美代子「『よい石花菜』とは何か——テングサの売買を巡る阿嬷・男的・原住民・卸し業者の関係性——」

そのほか、佐野賢治所長と小熊誠が参加した。

発表数は2日間にわたり40もあり、充実したフォーラムであった。今後は、発表だけでなく、共通テーマで各地域から発表者を出して議論するシンポジウムをプログラムに組み入れると海洋に関する研究が進展すると思われる。



写真3 エクスカーションの一風景（2019年11月30日）